

府川哲夫先生(国立社会保障・人口問題研究所)

「成年層の子ども数：労働組合経由の働き方に関する調査をもとに」へのコメント

2010年3月26日 国立社会保障・人口問題研究所 DP 発表会

坂本和靖(財団法人家計経済研究所)

●本稿の目的

少子化の要因として、「企業・職場」に注目し、i) 成年層の子ども数の実態を把握する、ii) 少子化現象への政策対応を考察する

●調査対象

2006年度(2007年1~2月): 電機連合傘下・情報労連傘下の労働組合を通じた調査

2007年度(2007年12月): UIゼンセン同盟・JSD加盟の労働組合を通じた調査

●本稿の研究成果

(子ども数との関連したものをピックアップすると)

1. 年収

→ 図2(a) 2006年 年収が低いほど子ども数(現在子)が多い

図2(b) 2006年 年収が低いほど子ども数(現在子+予定子)が多い

2007年 年収階層別の差が小さくなる

2. (夫)労働時間

→ 図4 労働時間が長いほど子ども数少ない(2006年:45歳~、2007年:30~44歳)

3. 子育て支援環境(配偶者以外の家族、親からの支援)

→ 表3 支援多いほど子ども数が多い

(4. 育児支援策)

→ 表6 2006年:夫 児童手当 妻 柔軟勤務(保育料)

2007年:夫 保育料(児童手当) 妻 保育料(児童手当)

サブプライムローン問題、世界金融危機による影響?

●コメント1

玉稿における目的、i) 子ども数の現状の把握、ii) そして企業・職場からの少子化への対策方法ということを考慮し、以下のような構成を提案したい。

1. はじめに (ママ)

2. 使用データ (一部ママ) → 表1 週労働時間と本人年収はカット

3. 子ども数の現状

→①まず、本稿における「企業・職場」の代理指標である、年収・労働時間・子育て支援環境、育児支援策についての解説

表2 (改定版 * p.2②コメント参照)

→②子ども数 × 年収・労働時間・子育て支援環境、育児支援策

図1 図2 (a) (b) 図4 【必要な育児支援策×子ども数との関係¹】

4. 希望が叶わない理由、叶えるための方途

→①何が現在子と予定子との差を生みだしているのか?に着目する。

案1 : (現在子+予定子) - 現在子の値を数 (3or5) 等分し、年収・労働時間・子育て支援環境の比較

案2 : (現在子+予定子) - 現在子の値と年収・労働時間・子育て支援環境、育児支援策の比較 (年収・労働時間は図示*例図参照、子育て支援環境は分散分析表)

→②必要とされている施策について

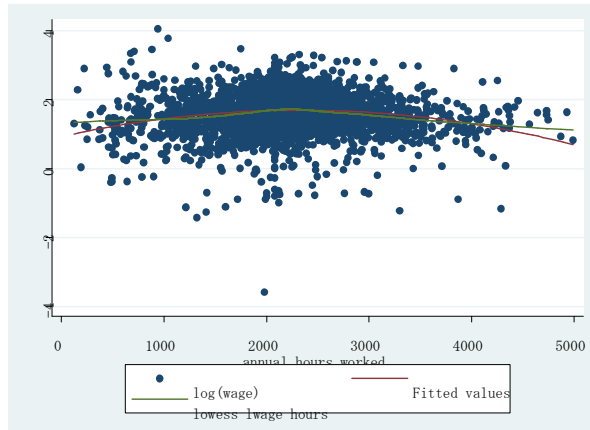
案1 : (現在子+予定子) - 現在子の値を数 (3or5) 等分し、必要とされている育児支援策²を比較

案2 : (現在子+予定子) - 現在子の値と必要とされている各育児支援策の得点を比較 (図示*例図参照など)

例図

¹ 各支援策の点数別 × 子ども数

² 支援策では、(現在子+予定子) - 現在子を数等分した各セルで、第1(2)位となる支援策を挙げる。



5. おわりに

・2006年度と2007年度調査で、企業・職場の影響に違いが見られる*。これらは景況による影響を受けているのかもしれない。調査票および調査対象者が多少異なるので、直接的比較は難しいが、2007年の1月～12月の景況に関する解説も加える必要があるかもしれない。

*具体的には、図4（労働時間が長いほど、子ども数が減少→増加へ）、図6（年収が高いほど、労働時間を減らしたい効果が減少）、表6（妻も育児支援策として、児童手当、保育料を望むようになる）など。

・労働時間と年収のトレードオフ関係（表4、図6）、独身者の結婚に関する意識（表5）と、本稿の目的である子ども数との関係が不明確であるため、考慮しなかった。

●コメント2

Op.1

①使用データ（2006年 既婚者本人票 674 < 既婚者配偶者票 682）

→マッチングできる最大数で合わせるべきでは？（配偶者票が本人票を上回ったことは脚注へ）

②1.14 結婚行動の変化（非婚化、晩婚化、晩産化）

→結婚・出産行動の変化（非婚化、晩婚化、晩産化）

Op.2

①表 1

→・年収階級区切り方の基準が不明。100万円単位で区切っては？

・1.4-6「子ども数の決定には本人の年収だけよりむしろ夫婦の年収が関与」とするなら、この表も夫婦年収でもよいのでは。

②表 2

→・本人票と配偶者票の年収のクロス表に関する説明はなくていいのか？

・サンプル数が多い、2007年の方も表章したほうがよいのではないかと？

・「これまで及び将来における子ども数の決定には本人の年収だけよりむしろ夫婦の年収が関与していると考え」とあるが、この背景には、共働き世帯の増加が前提となっているが、表2の形式（本人の年収×夫婦の年収）では意図したことが不明確に感じられる。もっとシンプルに、下記のようにしてもよいのではないかと。

| | 共働き割合 (共働き数/全カップル数) | 夫婦年収 | | |
|-------|------------------------|-------|-------|-------|
| | | 全体 | 共働き | 片働き |
| 2006年 | ●●% (△△△/□□□) | ×××万円 | ×××万円 | ×××万円 |
| 2007年 | ●●% (△△△/□□□) | ×××万円 | ×××万円 | ×××万円 |

③1.7 「子育て支援環境」の作成方法は注2に示した。」

→・この変数を利用する P5 に移した方がよいのではないかと。

④1.8 「サンプル数が少ない場合は数値を記載せず空欄とした」

→・具体的な基準は？

・p.6 表3の脚注「2006年度調査はサンプル数10以上、2007年度調査はサンプル数25以上のコマを表象した」と同じものか？

⑤ 「3.結果」

→・論文の前半であり、唐突な感じがする。

・本稿における「企業・職場」に関する定義の説明が必要ではないかと。上記の提案校正案を参照されたい。

Op.4

① 図 2

→・年収階級区切り方の基準が不明。100万円単位で区切っては？

②1.4 「～がみられたが、年収と子ども数の間には明確な関係が見られなかった。」

→ 「～がみられたが、2007年度調査では、年収と子ども数の・・・」？

それとも 「～がみられたが、総じて、年収と子ども数の・・・」？

Op.5

① 図 3

→図示せず、脚注でもよいのではないか。

② 図 4

→週労働時間の区切り方の基準が不明。

週 40 時間＝週休 2 日、1 日 8 時間

週 50 時間＝週休 2 日、1 日 10 時間

③1.5-7 「年齢計でみると両年度調査とも、又、男女とも、子育て支援環境が良いほど平均子ども数がふえるという結果になった」

→・年齢計であっても以下の事例では、「子育て支援環境が良いほど平均子ども数がふえる」とはいえないのでは？

2006 年度 男 51 時間以上では $B > C > A$

2006 年度 女 30～39 時間では $B > A$

2007 年度 女 40～50 時間では $A > C > B$

・労働時間も合計したもので比較されてはどうか。

Op.6

① 表 3、図 5

→A、B、C の説明を文末脚注だけでなく、表の下の脚注にも入れたほうがよいのではないか。

例 A：配偶者以外の家族と親双方からの育児支援あり

B：配偶者以外の家族、親いずれかからの育児支援あり

C：家族からの支援なし

②l.6 「表 4 は労働・・・」

→1 字下げ

③ (3) 労働時間と年収のトレード・オフ 表 4 (b)、図 6 (b)

→既婚者だけでよいのではないか。

④l.1 「1 つ選ぶ問がある」

→「1 つ選ぶ質問がある」

Op.7

①表 4 (a) (b)

→表左側の人数は削除し、「計」の人数だけの方がみやすいのではないか。

Op.8

① (4) 独身者の結婚に関する意識

→子ども数に関する文脈からは少し唐突過ぎるかもしれない。

②l.7 「問がある。」

→「質問がある。」

③l.15-17

→2006 年度調査の質問に関する説明が脚注にあったほうがよいのではないか。

「出産及び育児に関する支援のうち、どれがもっとも不足していると思われませんか。

下の中から、最も不足していると思うもの（第 1 位）と次に不足していると思うもの

（第 2 位）を選んでください。その他の場合は、具体的な内容も記入してください。」

Op.11

①注 2) 「子育て支援環境」の定義

問 X あなたには日常的に子育てを手伝ってもらえることができる配偶者以外のご家族（親や兄弟姉妹など）がいますか。

1. いる 2. いない

問 Y 出産、育児、子育て全般に関する支援について、あなたのご意見をお聞かせください。次にあげる具体的な項目のそれぞれについて、不足又は充足の度合いとして最も当てはまる番号 1 つに○を付けてください。

(4-2 親（自分の親・配偶者の親）の理解・協力)

- 1 非常に不足している
- 2 どちらかというと不足している
- 3 どちらかというと充実している
- 4 非常に充実していると思う
- 5 項目が自分の経験にとって適当でない等、判断不能

「3」「4」に回答したものを利用？

→

親の協力というかぶりがあるので、親の協力のダブルカウントされている可能性がある。

(以上)